

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和06年03月28日

計画の名称	戸田市の安全・安心な都市づくり（防災・安全）												
計画の期間	平成30年度～令和04年度（5年間）								重点配分対象の該当				
交付対象	戸田市												
計画の目標	本地区は市の中心部であり、地区中央の南北に埼京線が通ることにより、都心への利便性が向上した結果、宅地化が進んだが一部に無秩序な建設等が散見されることとなった。そのため市民が安全・安心を実感できるよう、戸田駅・北戸田駅を中心とした都市基盤の整備及び周辺道路の整備を実施していく。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	11,122	A	11,122	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 H30	中間目標値 R02末	最終目標値 R04末
1	安全・安心な駅周辺の整備を進めることにより、駅利用者を増加していく [81,000人（H30年）から86,000人（H34年末）へ増加] JR埼京線戸田駅、北戸田駅の乗降客の増加 年間乗降客数を集計する	81000人	84000人	86000人
2	自転車利用のための道路の整備を進めることにより、人口1万人当たりの自転車死傷者数を減少させる [19.4人/万人（H30年）から18.4人/万人（H34年末）へ減少] 人口1万人当たりの自転車死傷者数の減少 年間自転車死傷者数を集計する	19人/万人	19人/万人	18人/万人
3	避難所に繋がる路線の推進 避難所に繋がる路線整備 路線整備率を集計する	0%	33%	100%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---------------

A 基幹事業																			
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H30	H31	R02	R03	R04			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
道路事業	A01-001	街路	一般	戸田市	直接	戸田市	区画	改築	新曽第一地区((都) 旭町沖内線 外)	区画整理 A=91.2ha	戸田市						3,876	-	
	A01-002	街路	一般	戸田市	直接	戸田市	区画	改築	新曽第二地区((都) 旭町沖内線 外)	区画整理 A=40.5ha	戸田市						6,646	-	
												小計						10,522	
市街地整備事業	A13-003	都市防災	一般	戸田市	直接	戸田市	-	-	都市防災推進事業	地区公共施設(道路)1路線	戸田市						600	-	
											小計						600		
											合計						11,122		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
都市整備部まちづくり区画整理室が担当となって事後評価を進める。 また、事後評価の透明性、客観性、公正さを確保するため、学識経験者等により構成された「戸田市社会資本総合整備計画事後評価委員会」を設置し、目標の達成状況や今後の方針等の審議や意見聴取等を行う事後評価委員会を開催した。	令和5年度
	公表の方法
	市のホームページで公表、担当室での閲覧
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<p>【JR埼京線戸田駅、北戸田駅の乗降客の増加（人）】（新曽第一地区、新曽第二地区対象） 駅の1日の平均乗降客は、79,400人であり目標値86,000人には至らなかった。 これは新型コロナウイルス感染症の影響により、テレワーク等への労働環境の変化があり、職場に赴くことが必ずしも必要でなくなったため、駅の利用者数が減少したと考えられる。</p> <p>【人口1万人当たりの自転車死傷者数の減少（人/万人）】（新曽第一地区、新曽第二地区対象） 人口1万人当たりの自転車死傷者数は、16.6人で目標値の18.4人より少なく目標を達成した。</p> <p>【避難所に繋がる路線整備 路線整備率（%）】（前谷馬場線対象） 路線整備率（用地取得率）は44.9%であり、最終目標値100%には至らなかった。 これは新型コロナウイルス感染症の影響により、地権者との用地買収交渉が難しくなったことが考えられる。 なお、整備の進捗について全体事業費における令和2年度から令和4年度の支出割合は40.4%であった。</p>
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	<p>【近隣駅に対する乗降客数の推移比較 乗降客数減少率（%）】 乗降客数の、平成30年度をもとにした令和4年度の減少割合（乗降客数減少率：1-（R4乗降客数/H30乗降客数））は、戸田駅と北戸田駅の合算平均は2.5%。 近隣の埼京線各駅停車駅の乗降客数減少率よりも少なく、事業の成果が出たものとする。（浮間舟渡駅8.4%、中浦和駅9.8%）</p> <p>【人口の増加率（%）】（新曽第一地区、新曽第二地区対象） 平成30年から令和4年にかけて、事業地区の人口増加率について、新曽第一地区は17.5%増、新曽第二地区は3.4%増であり、戸田市全体の人口増加率2.1%増よりも高く、事業による効果がみられた。</p> <p>【土地評価額の上昇率（%）】（新曽第一地区、新曽第二地区対象） 平成30年から令和4年にかけて、土地評価額が、北戸田駅西口・東口でそれぞれ13.5%、13.6%上昇、戸田駅西口・東口でそれぞれ13.3%、10.6%上昇し、戸田公園駅西口・東口のそれぞれ7.5%、9.4%の上昇率よりも高く、事業による効果がみられた。</p> <p>【下水道整備率（%）】（前谷馬場線対象） 平成30年から令和4年にかけて、前谷馬場線両側の下水道整備率は、36.8%であり、事業による効果がみられた。</p>
特記事項（今後の方針等）	
<p>市民が安心、安全を実感できるよう、引続き戸田駅、北戸田駅を中心とした都市基盤整備及び周辺道路の整備を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新曽第一地区については、令和15年度の工事完成を目指す。 ・新曽第二地区については、浸水対策として重要な、上戸田川の整備箇所となる物件移転までを優先して進めていく。 ・前谷馬場線の整備については、コロナ禍で困難であった用地買収交渉が進展し、計画期間後の令和5年度末には目標値である路線整備率（用地取得率）は72.2%と遅れを取り戻している。引き続き、本地区の用地買収交渉に重点的（予算・人員）にあたることで、令和8年度末の目標達成を目指す。 	

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	JR埼京線戸田駅、北戸田駅の乗降客の増加（乗降客数/日（人））	
	最終目標値	86000人
	最終実績値	79400人
2	人口1万人当たりの自転車死傷者数の減少（人）	
	最終目標値	18人/万人
	最終実績値	17人/万人
3	避難所に繋がる路線整備 路線整備率（％）	
	最終目標値	100％
	最終実績値	45％